

## KSK 支のゆみ

障害のある人と援助者でつくる  
日本グループホーム学会準備中

横浜市グループホーム連絡会

会長 室津 滋樹

支援費制度がスタートしてまもなく1年、グループホームを取り巻く環境は激動を続けています。私たち運営委員会型のグループホームを20年間にわたって支えてきた在援協の市社協との一体化問題、国の支援費予算の不足問題、グループホームの支援費単価20%削減を内容とする平成16年度に向けたグループホームの事業運営の見直し(案)の提案など、グループホームにとつての大事件が次々とおきています。さらに、支援費と介護保険の統合の検討が開始されるなど、本当に激動期です。基本的には時代の大きな転機で、産みの苦しみの時代なのかもしれません。

横浜の問題についてはグループホーム連絡会として声を上げ、横浜市とも話し合い、グループホームの現状や課題を伝えてきましたし、さまざまな提案も行っていきます。しかし、全国ということになると、そのようなことを行える組織がないのです。

全国では施設が作ったグループホームが多く、予算規模でも職員数でも、グループホームは施設のおまけという地位を脱却できず、施設を中心とした組織ではグルー

プホームの問題が焦点となりにくい面があります。

一方でグループホームがきちんと新しい時代の役割を果たしていくためには、さらに質の向上をはからなければなりません。地域生活を支えるグループホーム職員の仕事は、実は大変な専門性が必要です。これは、入所施設が作り上げてきた援助技術とは別のものです。グループホームでの実践を理論化、普遍化していく必要があります。

そこで、グループホームを調査・研究して課題を明らかにしたり、グループホームでの援助を研究したり、また、グループホームの質を向上させていくために、グループホームを中心課題とする全国的なつながりが、激動期の今こそ必要です。

そしてこのような組織ができれば、全国でグループホームを作りたいけど、どうすればいいのかと悩んでいる人たち、グループホームを作ったけど、運営で悩んでいる人たちを応援することができるようにしたいと思います。グループホームが一つもない地域に、グループホームを作っていくことができるようになります。

そこで現在「障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会」を作ろうと準備をしています。学会といつても研究者や学者だけの組織ではなく、グループホームのことを考えていこうとする人たちの個人参加の組織です。関心のある方なら誰でも入会できます。新しい時代を切り開いていくために、是非グループホーム学会にご参加ください。

# 横浜市社会福祉協議会との一体化について

財横浜市在宅障害者援護協会

平成13年12月、横浜市福祉局から「横浜市社会福祉協議会」と

「横浜市在宅障害者援護協会」の組織一体化に関する提案を受けてからおよそ二年が経過しました。

この間、在援協と各団体は真摯に議論を重ねてきましたが、昨年の12月に開催された在援協理事会において「在援協は解散し、今後に対する条件を付して、平成16年4月1日より、従来行ってきたすべての業務と職員は市社協に移行すること」が決定され、市、市社協とも条件を含め、合意にいたる運びとなりました。

## 在援協の理念と原則を継承するために検討期間を

在援協の業務移行にあたっての条件の骨格はその理念の継承と今までの支援の質と内容を確認

保するために

『一、市社協内に障害者支援センターへ仮称Vを設置し、センター長の諮問機関として運営委員会を設けること。また、移行にあたり、「移行検討会」を在援協に置き、センター長の推薦等を行うこと。

二、(市)の提案では在援協の業務を区展開とする方向が示されたが、5年間は、在援協の業務と職員は区等へ移行せず、現状のままとする。また、あゆみ荘の業務と事務所の所在地等も現状のままとする。

三、その間、運営委員会を中心に障害者施策や各事業の将来像、全体像を描き、区展開等に関する検討を行うこと』です。

これらは、障害者、家族、団体関係者が特に強く望んだことであり、在援協の理事会・評議員会もそのことの必要性を受け止め、今回の提案、そして三者(市、市社協、在援協)の合意にいたる運びとなりました。

## 継承すべき理念

「当事者性」「開拓性」「運動性」  
在援協は、重い障害のある人の家族によって1973年(昭和48年)に創設されました。当時、障害別の施策のはざまにある人々も含め、多くの障害児者は、通うところもなく、暮らしも家族介助か入所施設の二者択一という時代背景の中に置かれていました。

## 在援協は、そのような背景の中

で誕生し、以来、障害の種類や程度を超えて、障害のある人が地域の中で活動し、暮らす拠点づくりを促進するために、その「支援者」としての役割を果たしてきたのです。

制度やサービスに障害者や家族の生活をあわせるのではなく、障害者や家族が自ら声をあげることを大切にしながら、全市レベルで「ないもの」をとら創り、生活の質を高めるための活動をしてきました。

## 直接サービスをもたない在援協

がそれらの支援を展開する際、その手法は自ずと施策、サービス、社会資源の「開発」「コーディネート」と孤立化しないための「組織化」に修練されてきました。

その実践は障害者や家族は単なる福祉の対象者ではないとする「当事者性」「開拓性」「運動性」という理念として結実しました。

## 継承すべき原則

在援協は一人一人の障害者や家族の声を大切にし、埋没させないために、その声を市全体の施策として位置付けようとしてきました。地域と市域レベルの循環を創り上げることが仕事の基本であ

り、またその原則(ルール)です。市が市社協との一体化を提案した後、設置した支援協在り方検討会(座長 谷口政隆氏・平成14年度)においても、少数者である障害者の声が地域の中で埋もれることのない仕組み作りが最優先課題とされました。

今後、地域と全市的なレベルでの支援の在り方を見定め、その仕組みづくりを検討する必要があります。それは地域と全市的な各団体との連携をどのように図るかという課題でもあります。

また、支援協は「生活」と「ライフサイクル」の視点を基本しながら相談とコーディネートを行ってきました。幼年期からの育ちや子育てをする家族をどのように支援するのか、それが自立にとつていかに重要であるかも実証されています。この基本をどう継承・発展するのも障害者支援センター移行後の重要な課題です。

さらに、市域レベルの各団体も、

この「ライフサイクル」の視点をますます強化し、相互に連携することが必要になってくるでしょうし、そのことの支援も強化しなければなりません。

### 支援協の仕事の仕組み

支援協の事務局には区担当職員や各事業等に関する市域全体の情報を一元的に把握するための事業担当職員がいます(但し区担当職員と兼務)。さらに障害者や家族、関係者をきめ細かく支援していくために地域コーディネーターも配置されています。これら各職種が必要に応じて重層的に障害者、家族、団体にかかわってきました。

また、より専門性を必要とする事項に関しては、そのつど専門家を開拓し、助言を受けるシステムも構築してきました。その際必要な専門家につなぐノウハウも長い年月をかけて蓄積してきました。

これらの仕事の仕組みは今後も

理念を継承し、即応性と専門性を確保するために必要不可欠なことです。

### 移行検討会の設置と検討

支援協の理事会で承認された「移行検討会」は既に二度にわたり開催されました(平成16年1月、2月開催・座長 谷口政隆氏)。ここでは、市社協に移行した支援協の正式名称を「障害者支援センター」とすること、市社協へは理事、評議員それぞれ2名を推薦することが決定されました。これから運営委員会の運営規則、委員構成等その枠組みを検討していきます。

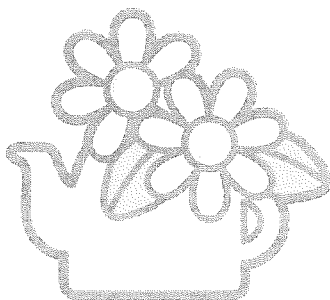
今後、移行検討会や障害者支援センター運営委員会において、支援協の「理念」や「原則」、「仕事の仕組み」をどのように継承するのか、また充実、発展させるのか、活発な討議を行っていく予定です。各関係者、また職員も当事者と家族の声に寄り添うことを

基本に、今後も最大の努力をばらうっていきます。

三十年間のご支援ありがとうございました。

みなさまの三十年の長きにわたる多大なご支援、ご協力に深く深く感謝、御礼を申し上げます。財団法人としての支援協の幕は今年3月をもって閉じますが、市社協の障害者支援センター移行後も、引き続きのご支援を心からお願ひ申し上げます。

※支援協の提案や移行検討会の内容、経過の詳細はホームページに掲載しています。



# 平成16年度に向けたグループホームの

## 事業運営の見直し(案) 白紙撤回となる

厚生労働省は12月5日付で各県・政令市・中核市あてに「平成16年度に向けたグループホームの事業運営の見直し(案)」を提示。財源の不足から区分1(重度)の単価を月額約23,500円の削減、年間にする」と定員四〜五名のグループホームで12万〜150万円の減額となる案を示し意見を求めました。

### 横浜の集いで集言採択

ちょうど時期が重なった12月14日の「グループホームを考える横浜のつどい」でもこの見直し案については議論となり、「入居者の生活に大きな影響を与えるような変更であるにもかかわらず当事者に説明がないこと。説明の場を設けてほしいこと。見直し案を即時撤回すること。」を求める集言が採択されました。

### グループホーム学会を作るう

またグループホームで暮らす障害者や援助スタッフ・運営者から援助の現場からの意見が届かないことが課題としてあげられ、パネルディスカッションの中で、グループホーム学会を作ったらどう

かとの提案がなされ、多くの参加者から期待が寄せられました。

### 国に説明の場を求める

集会後の12月15日、当連絡会を含めた5団体(DPI、ピープルファースト、全国グループホームスタッフネットワーク、障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議)で厚生労働省に案の白紙撤回を求め、当事者への説明の場の設定を申し入れ、12月17日に説明の場が設定されることになりました。

### 当事者の発言、国の白紙撤回

12月17日は厚生労働省前に全国から四百名が集まり、連絡会からは六十名が参加しました。

説明の場には厚生労働省の高原障害福祉課長他四名と各団体から二十名が出席。連絡会からは会長と入居者部会会長の永田さん、副会長の牧さんが出席しました。厚生労働省からの説明の後、

障害者のみなさんを中心に以下のようなたくさんの意見がだされました。「施設を増やすお金はあるのにどうして地域に出すお金がないのか」「重度の人たちが地域で暮らせるようにすることが一番大切」「新しいホームに入りたいと思っている人たちもたくさんいるのでグループホームをつくれるようにして」「お金を減らされたら支援者が二人から一人に減つてしまうので困る」「グループホームにいらなくなったらどこに行けばいいのか。施設にもどれというのか」「自分たちの声を聞いてほしい」

厚生労働省はこれらの意見に対して「グループホームに対する要望がたくさんあるので、数を作るためには単価を下げないとお金がたりない。広く薄くするしかない」との説明。それに対して「広くあつくすべき。薄くというのはおかしい。」とのやりとりが続いた後、高原課長から「皆さんの気持ちにはわかりました。これからど

うしていつたらいいか検討をしま  
す。」との発言があり、案の撤回と、  
グループホームのあり方について  
は当事者も含めて検討していくこ  
とが約束されました。

当事者から「外で待つているみ  
んなに謝つて説明してほしい」と  
の発言があり、高原課長はこれに  
答えて外に来られ、見直し案を白  
紙撤回することとこれからのグ  
ループホームのあり方については  
当事者も含めた検討をおこなうこ  
とが伝えられ、大きな拍手と歓  
声があがりました。

地域によっては、時間的にまに  
あわなくて参加できなかったとこ  
ろもありましたが、今回の見直し  
案が実現すれば地域福祉への流れ  
は堰き止められることになるとの  
危機感が全国に熱く流れました。

### 当事者の声は国に届くのか

当事者を中心とした多くの関係  
者のグループホームを求める切  
実な声に押されて、平成16年度の

国のグループホーム予算は、伸び  
る結果となりました。しかしなが  
らそれでもグループホーム予算が  
足りないという状況が変わった  
わけではありません。

### なぜ施設は守られ、 地域福祉予算は削られる

グループホーム予算が足りない  
原因を厚生労働省は、支援費制  
度の開始に伴う判定で、重度と判  
定される人が増えたからだと言  
明しています。しかし重度と判  
定される人が増える傾向は入所施  
設においても同じなのです。でも  
入所施設については、法的にかか  
る費用を必ず出さなければいけ  
ない(義務的経費)ということになっ  
ているので何ら問題にもならず補  
正予算が組まれているのです。

地域で暮らす障害者の方がはる  
かに多い。しかも入所施設に入  
所している人も含めて、障害者は  
地域で暮らせるようになるための  
施策を望んでいるのです。にもか

かわらず、施設予算は守られ、地  
域福祉予算は削られるという理不  
筋さをどうして変えられないので  
しょうか。こんな納得のいかない  
できごとがなぜまかり通るので  
しょうか。

### 障害者の希望を叶えてほしい

これから厚生労働省とグループ

ホームのあり方をきちんと検討す  
ることを進めていかなければなり  
ません。グループホーム制度の充  
実は、施設から出たいと願う人た  
ちの新しい生き方を切り開くこと  
にもつながります。「地域福祉の  
推進」を応援するために厚生労  
働省はきちんと対応していただき  
たいと思います。

## 日本グループホーム学会入会申し込み方法

日本グループホーム学会(関連記事9ページ)への入  
会を希望される方は、必要事項を学会事務局までお送  
りください。

年会費は2000円です。

入会されますと、年4回「季刊グループホーム」が送付さ  
れます。

名前	_____
所属	(職名) _____
連絡先 〒	_____
TEL	FAX _____
e-mail	_____
学会会員用メーリングリストに 参加する・参加しない	

学会事務局(事務委託); 東京コロニー

FAX; 03-3953-9461 e-mail; yaho@tocolo.or.jp

障害のある人と援助者でつくる

# 日本グループホーム学会

ができました。  
あなたもぜひ会員に！

あなたは今

だと どうして

どんなふうに

暮らしていますか？

その暮らしに 満足ですか？

困っていることは

ありませんか？

将来は どんな暮らしが

したいですか？

こんなことを

話し合い 勉強し

自分にあつた暮らしを

実現させるために

とまじ

考えていきましょう。

## 日本グループホーム学会って、どんな会？

誰でも自分の意思にもとづいて、地域で暮らせる権利をもっています。  
障害の種類や程度にかかわらず、どんな人でも快適に暮らせる場所が必要です。  
障害のある人、援助者、家族、研究者、行政で仕事をする人など、  
幅広い人が集まってこの問題を研究し、その成果を分け合い、  
暮らしやすいグループホームをつくっていくことがこの会の目的です。

## どんな活動をするの？

1. 季刊「グループホーム」を発行します。(季刊・年4回、春夏秋冬に発行)
2. 全国の会員が集まって研究大会などを開きます。
3. 議会や行政に意見を出し、グループホームをよくしていきます。  
マスコミなどを活用して社会にもアピールします。
4. 会員同士の情報交換
5. 入居者(利用者)・現場スタッフ・運営者などの相談にのり研修を手伝います。

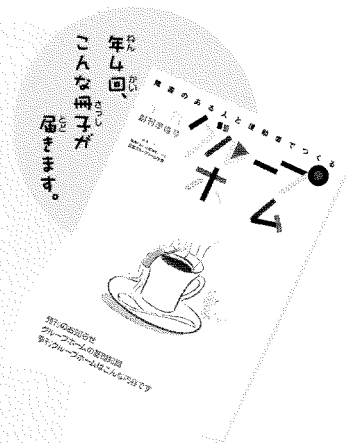
## 会員になるのはどんな人？

会の目的に賛成し、一緒に活動しようと思う人は誰でも会員になります。  
会員になるには、団体名ではなく、個人名で登録します。  
年会費2000円を払うと、年4回「グループホーム」という雑誌が届きます。

## 学会というと、かたい感じがしますが？

学会と言っても、これは新しいタイプの学会。学者の集まりではありません。  
グループホームで暮らす人を中心にいろいろな立場・職業の人がかかり、  
新しい暮らしのあり方を考えてゆく学会です。

この学会にとって、あなたの意見がとても大切です。  
ぜひ会員になって、積極的に意見を出してください。  
難しいと感じたときは、遠慮なく言ってください。



# 新しい仲間です よろしくね!!

### グループホーム ゆい

相鉄線のいずみ中央駅から徒歩で20分ぐら  
いの緑あふれる場所に建っているグループホーム  
です。現在男性4名の方が生活しています。平日  
は仕事やディサービスに行ってます。また、休日  
はそれぞれ、自由気ままに過ごしています。  
みなさん、よろしく お願いします。

あかむら よのち 岡村 洋一	いのささ あきひと 岩崎 暁仁
うちだ あきお 内田 秋雄	たなか けん 田中 実

### グループホーム ソレイユ

浅川一夫  
常磐線快速に  
乗りたいです。  
好きな食べ物は  
焼肉です。

白田 康平  
氷川きりたんが好き  
です。  
好きな食べ物は  
犬肉(きんぐ)の  
刺身です。

柏原 宗義  
カンニング系と  
スケアクラフになり  
たいです。  
好きな食べ物は、  
サンダーマンの  
チョコです。

高橋 美子  
マラソンせんしゅになり  
たい。  
おみもの、さいほめてい  
ものを  
つくるのが好きです。

長谷川 友美  
早くがけしがほしい  
です。  
それはつまげまきとし  
ひんがすのがすきです。

ソレイユとはフランスご  
と太陽という意味です。その  
あたたかい個性豊かな仲間達  
と温かく、明るく、陽気でホ  
ムな生活は、笑い声がたえず  
みなさまよろしく  
お願いします!!

### グリーン川和ハイツ

みなさん 同じ作業所で野菜を収穫しています。

犬夜叉  
ドラえもんが好き  
です。  
好きな食べ物は、  
佐々木菜二  
(ささきりゅうじ)

ディズニーランド  
にいきたい  
です。  
好きな食べ物は、  
海苔(うめずし)  
(うめずし)

カラオケでホーシカ  
をうたいます。長島一  
(ながしま はじめ)

カラオケと電車が  
好きです。  
好きな食べ物は、  
中藤友和  
(なかつともかず)

おやつ作りが  
楽しいです。  
好きな食べ物は、  
小松菜子  
(こまつなこ)

よろしくおねがいします!

### いしいちゃん

好きな食べ物 いちご  
好きな歌 SMAP, WINS  
TOKIO  
いま1ばんしたいこと カラオケ

### スカちゃん

好きな食べ物 カレーライス  
好きな歌 たはらしひこ  
いま1ばんしたいこと ボーリング

### たむち

好きな食べ物 やきにく  
好きな歌 モーニング娘 (いしかわりか)  
ごとうまき、まつうらあや、ELT  
いま1ばんしたいこと やきゅうかんせん  
(ベイスターズXジャイアンツ)

### 米村

好きな食べ物 カレーライス  
好きな歌 ココア、紅茶  
好きな歌 しばざきこう、かみやまきや  
いま1ばんしたいこと!  
TDL (ディズニーランド) にいきたい

### ファイブメン

〒244-06  
P区戸塚町  
2481-1

渡辺 和幸 さん  
しゅみは、電車の写真  
をとることです!!

有馬 正岡 さん  
しゅみは、TVゲームを  
することです!!

鈴木 旭 さん  
しゅみは、外出  
することです!!

小山 雅夫 さん  
しゅみは、音楽を  
まかすること  
です!!

茂木 やすか さん  
しゅみは、野球を  
することです!!

### グループホームのあーびーす

緑区にあるグループホームです。平成14年7月に開所しました。  
男性二人、女性二人の四人で生活しています。

☆鈴木 孝子 さん  
わたしには、ゆめがあります。おもい障害の人のくらしのことを  
本に書きたいです。

☆飯田 朋江 さん  
見た目はとっても若いのですが、趣味は演歌をきくことです。

☆小野 健二 さん  
ヒーロー物大好きです。音楽も大好きです。笑った顔が素敵です。

☆飯田 朋江 さん  
一緒にいるとホッとします。笑った顔は周りの人をなごませてくれます。

あしやれずき  
せがたかい  
さちさん  
けんじさん  
めぐ  
はろり  
みさえさん  
えがおか  
ステキ  
4人の笑顔が  
あつまって ぽかぽか  
です。

# 「グループホームを考える 横浜の集い」開催される!

12月14日(日) 横浜市健康福祉総合センター4階ホールにて「グループホームを考える横浜の集い」が開催されました。事前の受付で定員を超える盛況で、県外からの参加者も多く、グループホームへの関心の高さを感ずる集いとなりました。

午前の部は長野県西駒郷自律支援部部長の山田優氏による講演。全国に先駆けて施設縮小に取り組みはじめた西駒郷のようすが報告されました。長年、施設での暮らしを余儀なくされてきた西駒郷の入所者ひとりひとりの意志をいねいに確認する取り組みについては集まった人たちの心を打つものでした。

昼食をはさんで午後の部ではまず、しらねセンター長中里誠氏から「施設入所者の意向調査報告」入所施設を希望するのは施設入所者で18%、地域での生活実習経験者では5%、グループホーム入居者では1%しかないという調査結果が報告されました。次に横浜市在宅障害者援護協会の小嶋已知代氏から「運営委員会型グループホームの支援のしくみ」というテーマで、30年間にわたる在援協の取り組みについて報告されました。

ついで横浜市グループホーム連絡会会長の室津滋樹からは、「全国のバックアップ施設をもたないグループホーム調査の結果報告」と厚生労働省から提案された平成16年度に向けたグループホームの事業運営の見直し(案)についての報告がおこなわれました。

これを受けて花園大学の三田優子氏の司会により厚生労働省の大塚晃氏、白梅学園短期大学の堀江まゆみ氏を加えてパネルディスカッション「施設から地域への流れを確かなものに」に移りました。支援費制度のもとでの地域生活

支援の財源に関する議論が白熱し、グループホームが地域生活支援の柱として期待される一方、全国的な組織がないことから国の施策に対する発言の機会がないことが課題として出されました。堀江氏からは、情報交換、意見交換の場として「日本グループホーム学会」の設立と、「月刊グループホーム」発行の提案がなされました。貴重な情報と今後の課題を十分に得ることのできた一日となりました。

## 会場からの声(アンケートより)

\* グループホームを考える横浜の集いが各地でおこなわれるくらい大きなうねりになればと思います。私の地ではまだグループホームが3カ所くらいしかありません。これから立ち上げたい。

\* 自分は重心の親です。こういう機会がもっとほしい。自分自身で考えることは何なのかを考えさせられました。地域で生活すること

とを本人支援ということだと考え、親同士がもっと学ぶ必要があるとつくづくと思いました。

\* 「世話人」という言葉を聞くたびに障害者は世話をしてもらわなければならないのだと思わされます。生活を援助、支援してもらいたいのです。呼び名を是非改めてほしい。

\* 「施設ではなく地域へ」ということは本当に大切なことです。少しずつでもできることから始めていきたいと感じました。

\* 国の予算等についての知識を持つべきだと思います。何か情報がほしくて参加しました。普段は世話人をやっている日々、尻ぬぐいはどうしているかわからない気持ちでいました。新たに研修会や相互意見交換できる場を求めます。

(他多数の意見が寄せられました)



# ●グループホームの応援団をつくらう 障害のある人と援助者でつくる

## 「日本グループホーム学会」 設立の呼びかけ

### 設立の趣旨

グループホームは、地域で暮らす障害者にとってはかけがえのない住居です。入所施設の「付属物」ではありません。

2002年12月に政府が決定した新障害者基本計画は、「障害者本人の意向を尊重し、入所(入院)者の地域生活への移行を促進する」、入所施設については「真に必要なものに限定する」と明記されました。今こそ、グループホームを飛躍的に増やし、その援助の質を高めていかなければなりません。2003年4月から始まった支援費制度の下では、グループホームは微増の域を出ず、新障害者基本計画の理念とは裏腹の現実を見せています。支援費制度で、「障害者の自

己決定」や「利用者本位のサービス提供」や「障害者自らによるサービス選択」をいくら謳っても、こうした現実を変えない限り、障害者の地域生活は「絵に描いた餅」でしかありません。

そこで、現在グループホームで暮らしている利用者、家族、援助者、これからグループホームを作ろうと思っている人々、学識経験者、行政職員らが集まり、「障害のある人と援助者でつくる『日本グループホーム学会』」を立ち上げることになりました。精神障害者や高齢者のグループホームの関係者にも広く呼びかけ、これからの「暮らし」について考えていきたいと思っています。

### 活動の目的

① 質の高い援助を提供するグループホームを全国各地に確実にふやす。

② グループホーム間の情報交換や支援に関する研究を進める。

③ 現在あるグループホームを支援するしくみをつくり、運営の不安定さを改善していく。

④ 国や自治体に対して、現場から政策提言や意見を発信する。

⑤ 社会に対して障害者の地域生活の理解してもらおうための情報を発信する。

### 活動内容

① 「季刊グループホーム」の発刊

② グループホーム学会研究大会の開催(年に一度)

③ 地区ごとに、中間学会を開催(各地区で適宜開催)

④ 議会や行政に対する政策提言、メディアを通しての社会的なアピール

⑤ メーリングリストによる情報交換、現場スタッフ(世話人)や運営者対象の研修や相談業務

\* 本学会は個人入会が原則です。あらゆる組織やグループに関わらず、とらわれず、障害者の地

域生活にかける思いのある方、一緒にやりましょう。

### 設立準備会呼びかけ人

代表：室津滋樹

- 酒井比呂志、花崎三千子、松友了、
- 燕信子、久保洋、野沢和弘、鈴木
- 伸佳、室津茂美、光増昌久、岩本真
- 紀子、山田優、本田隆光、阿部八
- 重、松本隆幸、明千恵、横田美貴、
- 小林繁市、福岡寿、根来正博、阿
- 由葉寛、河坂昌利、三田優子、北
- 野誠一、大熊由紀子、堀江まゆみ

連絡先：障害のある人と援助者でつくる

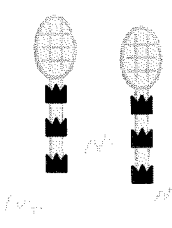
「日本グループホーム学会設立準備会」

FAX：042-1346-5644

(堀江研究室受付)

mail: mayumi@shirane.ac.jp

※入会申し込みについてはP5参照



### 職員宿泊研修に参加して

ハーモニー 荒内 直子

9月21日(日)から9月22日(月)にかけてあゆみ荘にて、約四十名の職員が参加して、一泊二日の職員宿泊研修を行いました。グループホーム連絡会会長の室津滋樹さんから、「障害者の歴史とグループホームの歴史」について講演を受けた後、「グループホームにおける援助を考える」と題し、荒内直子(ハーモニー)、中西進さん(第二グループホームもくせい)、斉藤リエさん(ふれあい生活の家)、山下和子さん(アイリス)の四名の職員をパネラーとし、岡部千枝さん(やまゆり)に司会、室津滋樹さんにコメントーターを務めていただき、シンポジウムを行いました。

シンポジウムでは、入居者への援助の悩みから、A型グループホーム特有のバックアップの弱さなどが、職員にとって苦勞してい

る点として挙げられました。また、多くのホームで共通の課題となりつつある、入居者の高齢化の問題についても声が上がりました。

夕食後は十名程度のグループごとに分かれての交流会が開かれました。職員同士で、日頃の仕事の悩みについて、夜遅くまで熱心に語り合う姿が続きました。

A型のグループホームでは、職員は一人か二人のホームが一般的であり、仕事の問題について一人で抱え込んでしまいがちです。そんなときに、職員同士で相談し

あえることで、仕事を続けていく力を得ることができれば、と思います。今回の宿泊研修を良いきっかけとし、今後も職員同士のつながりを育てて行きたいと思えます。

### グループホーム職員研修会

#### グループC話し合い

みどりがおか 栗本 留津

グループCでは、仕事をしていてどんなことを考えているのかということを出しあいました。

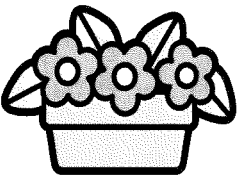
その中で多かったのは「①ホーム内の援助者間の連携についてどうやったらうまくいくのか、②入居者の通所先との連携はどううまくはかるのか、③緊急時に対応してくれるところがなくて困っている」という意見でした。

グループホームでの援助者間の連携について、さらに各ホームから出してもらったところ、ほとんどのホームで職員連絡帳や電話または携帯電話のメールでの連携をはかっていました。二人の職員で夜勤体制というホームが多く、その体制上、すれ違い勤務になるのはやむを得ないという感じですが、そこにはお互いがどんな仕事の仕方をしているのか確認できないと

いう課題があります。

月に2回しか顔をあわせての打ち合わせをおこなえないホームもありました。またひとりではいるホームヘルパーや非常勤の方とも連絡帳を通してのやりとりをしているホームもありました。

どこのホームでも職員が同時に勤務する体制をつくるのは至難の業。あるホームでは、夜勤明けの職員が次の職員の勤務時間まで残り(つまり明けの日の夜まで)相手の職員の勤務している時の状態を把握しようとしていて、この話でした。また別のホームではその日の職員によって入居者の様子が大きく変わってしまった、その違いをお互いの職員どうしが把握することが困難ということもあげられてきました。このような状況も理解した上で生活援助をおこなう必要があるとしたら、どうしたら職員間のできる限り共通の認識をもつことが可能になるのかということを思われました。



### 伊豆長岡のみかん狩りと温泉の旅

11月24日、三連休最後の日に総勢115名の参加者で三台のバスを借り切って伊豆長岡みかん狩りと温泉の日帰り旅に出かけました。

今年のみかんが不作。はじめに予定されていた湯河原ではみかん狩りができず急遽、伊豆長岡に変更となった旅でした。お天気は今ひとつといったところでしたが、おいしいみかんと食事、温泉とみなさんとても満足の一日だったようです。

最後、連休の渋滞にはまってしまい、午後三時に出発したのに横浜に着いたのが夜の九時。さすがに疲れ果ててしまいました。

入居者部会でみなさんの感想を聞きました。

「みかんがりはよかったですけど、帰りのバスが大変だった。みんなあきちゃった。」「みかん食い過ぎた。」「急なところでとったみかんがおいしかった。斜面のところがね。」

「みかんがりも良かったけど、ホテルがきれいだった。ぜひ一回とまりたい。」「渋滞のこと、ちがうルート行けばよかったですよ。箱根新道、スカイライン通ればよかったですよ。」「みかんは高いところの小さいのがおいしかった。大きいのはまずかった。おふるもよかったです。ごはんもごうかったです。渋滞は三連休だったからしょうがないと思う。」



写真提供 沼尻 元一 (ハイツきさらぎ)

### みかん狩りについて

グループホームルカ 山内 哲

11月24日、グループホーム連絡会で、日帰りの旅行に参加しました。行った場所は、静岡県伊豆長岡です。

バスの中では、ほかのグループホームの自己紹介や、クイズをしました。バスガイドさんも楽しめました。優しく過ごしました。

みかん園は、いっぱいみかんがありました。みかんを食べた感じは、駿河で日本一おいしかったです。たくさん食べました。おじさんがていねいに優しく答えてくれました。もう少し長く見学したほうがいいです。

それから、楽しみなお食事をやりました。おさかなやお肉や茶碗むし、ごはん、おみそ汁、たくさん食べました。

露天風呂は大きかった。気持ちよかったです。温泉は長く温まって、気持ちよいくらい入りたいです。

帰りは、ホテルからバスに乗って、沼津インターから東名高速に乗って来ました。渋滞がすごくてつかれました。渋滞してしかたなく海老名で最後のタイムをしました。横浜に着いたのは午後9時頃着きました。渋滞はもういやです。

今度は箱根から帰りました。すいているほうがいいです。それが僕の予想として、厚木から小田原厚木道路で小田原から箱根ターンパイク道路から行きました。帰りも同じ経路にしました。時間が短くてすむから。

みなさんにあえたので、もっと多くの参加が一つの望みです。つぎの機会があれば泊まりもやりたい。これからも一回ずつ計画したい。たとえは春に泊まり、夏はキャンプ、秋は日帰り、冬はクリスマス会などです。一年は長いですが、また参加をしたいと思います。今年度は多くの参加が来てほしいです。

### 協力会員募集!

まちの中で くらしている障害者の声や  
声をお届けする機関紙「まちの中で」を  
発行しつづけるために ご支援をお願い  
いたします。

会費 (年) 1口 2000円  
振替 ... 00280-7-73608  
横浜市グループホーム連絡会

☞ 協力会員になっていただいた方には  
機関紙をお送りいたします。

### 基金づくりにご協力を!

グループホーム運営支援基金のために  
みなさまのお手元でねまっている未使用の  
テレホンカード、オレンジカード、ビール券、  
商品券などの ご寄付をお願いします。

送付先: 横浜市グループホーム連絡会  
事務局  
〒231-0833  
横浜市中区本牧満板10  
本牧生活の家 045-623-5318

新年度の協力会費  
振り込みお願い  
いたします。

住所変更など  
ありましたら お知らせ下さい

ありがとう ございました (2003. 4 ~ 2004. 2 敬称略)

<協力会費> 芭島 法子、植田 慶子、渡部 恵子、今井 啓子  
鈴木 恭子、鈴木 伸、原田 南海子、錦戸 糸子  
愛敬 千佳子、南 啓、荒川 綾子、菊地 貞子  
鈴木 義弘、森下 博子、岡本 美知子、早川 吉則  
青井 富美子、藤尾 孝枝

<寄附> 長島 一直、加藤 ヨシ子、早川 吉則、大石  
藤尾 孝枝

<テレホンカード> 金沢 昭子、内山 光子、岩永 美恵子、青井 富美子  
伊達 富美子

<ビール券など> 金沢 昭子、出発 なかまの会

### 編集後記

グループホーム関係者がまちにまった全国的なつながりができ  
ようとしています。日本全国津々浦々、どんな障害を持ってい  
ても地域の中でくらするようにしたい。そんな思いが全国規模  
でつながって、本当の地域福祉の時代をつくりたいものです。

発行人 神奈川県身体障害者団体定期刊行物協会  
横浜市港北区鳥山町1752  
横浜ラポール3F  
編集人 横浜市グループホーム連絡会  
横浜市中区本牧満板10 本牧生活の家  
TEL 045(623)5318  
FAX 045(623)5319  
郵便振込番号 00280-7-73608  
名称 横浜市グループホーム連絡会  
編集責任者 室津 滋樹  
定価 100円